

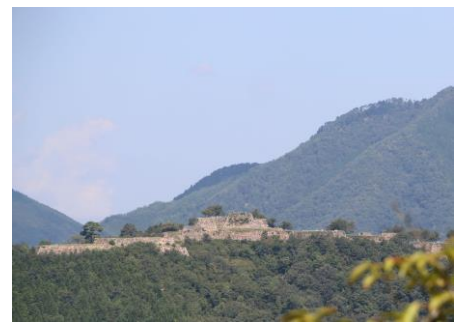
平成30年度 加古川南高校 インスパイアハイスクール事業 活動報告

事業	: サイエンスキャンプ「体験！環境科学の世界」
講師	: 兵庫県立大学環境人間学部 池野 英利 教授 他3名
実施日	: 平成30年8月29日（水）～31日（金）
場所	: 兵庫県立南但馬自然学校
参加者	: 32名（大学生12名、加古川東高生8名、加古川南高生12名）

兵庫県立大学環境人間学部生物システム研究グループの協力のもと、2泊3日のサイエンスキャンプを行いました。この企画は、自然豊かな環境を利用して、大学教員、そして本校教員による指導のもと「大学生と高校生との交流」そして、「サイエンスに対する興味づけ」を行うことを目的としています。今年も県立加古川東高校の生徒に参加をしてもらい、教員含め総勢38名という大人数での実施となりました。

【初日】

午前中は朝来山中腹の立雲峡まで約2時間かけて登りました。登山中には、兵庫県立大学の橋先生・遠藤いず貴先生より自然を観察しながら森の7つの役割について話をいただきました。また、登山途中で竹田城を臨むことができました。



下山し、バスで宿泊先のロッジに荷物を置いた後は、さっそく大学生とともに飯盒すいさんでカレーを作りました。自分たちにできることは何か探しながら行動するよう心掛けさせました。

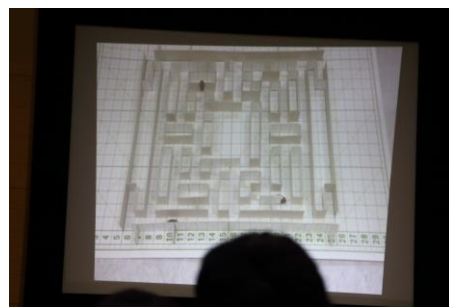


夜の交流会では大学生と高校生の班に分かれ、自分の班の人から趣味や好きなことなどを聞き、それを全体の前で紹介する「自己紹介」ではなく「他己紹介」というレクリエーションを行いました。大学生がうまく高校生の緊張をほぐしてくれたおかげでかなり打ち解けることができました。

【2日目】

この日は施設内で研修を行いました。午前のプログラムは三好教諭による「ピンホールカメラ」でした。ピンホールカメラを実際に作製することで、カメラの仕組み学びました。また加古川東高校の伊庭教諭による「炭電池の仕組み」という実験も行いました。炭とアルミホイルと食塩水だけで電池が作れることを実験し、電池の仕組みを学びました。

午後のプログラムは、兵庫県立大学の池野教授による「生物の動きのメカニズム」も行いました。ダンゴムシが迷路内でどのような動きをするのかを観察し、交替性転向反応の発生を確認しました。



晩御飯は全員でバーベキューをしました。その後のレクリエーションは、「紙タワー」というレクリエーションをチームに分かれて取り組みました。限られた枚数の A4 の紙だけを使い、どれだけ高い塔を作れるかというもので、各チームとも大学生と高校生が相談しながら知恵を絞りました。



【3日目】

最後の活動は宿泊棟の掃除でした。トイレ掃除も積極的に行うなど、このキャンプでの成長を見ることができました。どのプログラムも生徒たちにとっては印象的で、解散式では大学生との別れを惜しむ姿も見られました。



【キャンプを終えて】

日本国内でも理科離れが進んでいると言われていています。「全然興味が湧かない」「理解できない」といって、その分野から距離を置いている生徒も多いことでしょう。しかし、そういう苦手な環境にあえて身を置き、様々な発見をする中で、興味を持ち始めることもあると思います。

今回のキャンプに参加した生徒は全員が理科を得意としているわけではありませんでしたが、それぞれのプログラムに参加しているときの目は輝いていました。そしてキャンプを終えた後、「楽しかった」という言葉を述べる生徒がほとんどでした。

今後もぜひこの事業を継続していき、本校でサイエンスに対する興味をもつ生徒が少しでも増えるよう努めたいと感じました。